19　「今物語」　─中世の説話集

16年度　法政大学

★　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

　祥寺僧といひける人の、いまだ若くて病大事にて、Ａ限りなりけるころ、寝入りたる人、にはかに起きて、「そこなる文、など取り入れぬぞ」と、厳しく言はれけれども、さる文なかりければ、１うつつならずおぼえて、前なるものども、あきれあやしみけるに、自ら立ち走りて、明かり障子をあけて、てぶみをとりて見ければ、ものども、まことにふしぎにおぼえて見る程に、これを広げて見て、しばしうち案じて、書きてさし置きて、又Ｂやがて寝入りにけり。

　起き臥しもたやすからずなりたる人の、いかなりける事にかとａあやしみける程に、しばし寝入りて、汗おびたたしく流れて、起き上がりて、「ふしぎの夢を見たりつる」とて語られける。

　「大きなるのりの着たるが、たてぶみたる文を持ちて来つるを、Ｃ人の遅く取り入れつるに、自らこれを取りて見つれば、歌一首あり。

　　２たのめつつこぬ年月をかさぬれば朽ちせぬ契りいかがむすばん

とありつれば、御返事には、

　　心をばかけてぞたのむふだすきのやしろの玉に

と書きてまゐらせつるなり。これはよりの御歌をたまはりてはべるなり」と語られければ、前なる人、あさましくふしぎに覚えて、「これは、ただ今、うつつにはべる事なり。これこそ御文よ。又、ｂ書かせ給へる御返事よ」と言ひければに住して、前なる文どもを広げて見けるに、つゆたがふ事なし。

　その後、病怠りにけり。３いとふしぎなり。

【注】　＊嘉祥寺　　　　　京都の寺院。仁和寺の別院。

　　　　＊海恵　　　　　　仁和寺守覚法親王の門弟の僧。

　　　　＊たてぶみ　　　　正式な包み方をした手紙。

　　　　＊猿　　　　　　　山王神の使者とされる獣。

　　　　＊藍摺りの水干　　藍の葉でつくった染料で模様を摺った衣装。

　　　　＊ゆふだすき　　　木綿で作ったたすき。神事を行う際に神官がかけるもの。

　　　　＊七のやしろ　　　日吉山王神の社。

　　　　＊斎垣　　　　　　神聖な垣。

　　　　＊正念　　　　　　雑念をはらって一心に神仏を念じること。

問１　傍線部Ａ「限りなりけるころ」Ｂ「やがて寝入りにけり」Ｃ「人の遅く取り入れつるに」の本文中における意味として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選べ。

Ａ「限りなりけるころ」

　ア　ようやく病気が平癒したという時

　イ　いよいよ命も尽きてしまったかという時

　ウ　もはや治療も限界だという時

　エ　すでに病気が最悪の状態となってしまった時

　オ　早くも苦しみが終わりに近付いたという時

Ｂ「やがて寝入りにけり」

　ア　しばらくして寝入ってしまった

　イ　完全に寝入ってしまった

　ウ　うとうとと寝入ってしまった

　エ　ゆっくりと寝入ってしまった

　オ　すぐに寝入ってしまった

Ｃ「人の遅く取り入れつるに」

　ア　人がすでに取り入れてしまったので

　イ　人がようやく取り入れようとしているので

　ウ　人が取り入れようとするのに遅れをとるので

　エ　人がなかなか取り入れなかったので

　オ　遅れながらも人が取り入れてしまったので

問２　波線部ａ「あやしみ」ｂ「書か」の動作の主体は誰か。最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選べ。

ア　海恵　　イ　前なるものども　　ウ　大きなる猿

エ　山王　　オ　作者

ａ＝［　　　］　　ｂ＝［　　　］

問３　傍線部１「うつつならずおぼえて」を現代語訳せよ。

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

問４　傍線部２「たのめ」の①活用の種類と活用形、②本文中の意味として、最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選べ。

①「たのめ」の活用の種類と活用形

　ア　四段活用の連用形　　　イ　四段活用の已然形

　ウ　四段活用の命令形　　　エ　下二段活用の未然形

　オ　下二段活用の連用形　　カ　下二段活用の命令形

②「たのめ」の本文中の意味

　ア　信頼する　　　イ　希望する　　　ウ　依頼する

　エ　期待させる　　オ　心配させる

◎問５　本文の内容と合致するものをつぎの中から一つ選べ。

ア　病にうなされた海恵は、病床に臥せっている一人の男が突如起き上がるという夢を見た。

イ　夢の告げに従って、文を自ら取りに行った海恵は、そこに文がないことを不審に思った。

ウ　病に苦しむ海恵は、立ち上がることも出来ず、ただおびただしい汗を流すばかりであった。

エ　日吉山王神からの歌を授かった海恵は、神にすがる気持ちを自ら和歌にしたためた。

オ　海恵が語る不思議な夢の話を聞いた人々は、大きな猿が実際に訪れたことを語り合った。

◎問６　傍線部３「いとふしぎなり」とあるが、どのような点が「ふしぎ」なのか。つぎの形式に従って、四十五字以上五十字以内で解答欄に記せ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

［

］

という点。

問７　『今物語』は鎌倉時代の説話集であるが、つぎの中から鎌倉時代の文学作品ではないものを二つ選べ。

ア　建礼門院右京大夫集　　イ　方丈記　　ウ　大鏡

エ　古今著聞集　　　　　　オ　発心集　　カ　更級日記

【解答】

問１　Ａ＝イ　Ｂ＝オ　Ｃ＝エ

問２　ａ＝イ　ｂ＝ア

問３　（僧都は）正気でないと思われて

評価の基準　「正気」を「現実」と訳していた場合は減点５。「思って」と訳していた場合は減点３。

問４　①＝オ　②＝エ

問５　エ

問６　Ａ山王神への深い信仰のお陰で、Ｂ海恵僧都の夢の話と現実世界での彼の行動が重なり、Ｃ僧都の重病が癒えた（47字）

評価の基準　Ａ＝２／Ｂ＝５〔「夢と同じことが現実に起きていた」という意があれば可。〕／Ｃ＝３

問７　ウ・カ

【現代語訳】

　嘉祥寺僧都海恵といった人が、まだ若いのに病気が重くなって、いよいよ最期になった時、寝入っていた（この）人が、急に起きて、「そこにある手紙を、どうして取り入れないのか」と、きつくおっしゃったが、そのような手紙はなかったので、（僧都は）正気でないと思われて、前にいる者たちが、あっけにとられて不思議に思っていたところ、（僧都は）自ら立って走って、明かり障子を開けて、手紙を（手に）取って見たので、みなの者は、本当に不思議に思われて見ているうちに、（僧都は）これ（＝手紙）を広げて見て、しばらく思案して、返事を書いて（そこに）置いて、またすぐに寝入ってしまった。

　起きるのも横になるのも容易ではなくなってしまった人が、どのようになったことであろうかと（皆は）不思議に思っていたところ、（僧都は）少し寝入って、汗がひどく流れて、起き上がって、「不思議な夢をみたことよ」と（次のように）語りなさった。

　「大きな猿で、藍摺りの水干を着た猿が、立て文にした手紙を持って来たのを、人がなかなか取り入れなかったので、自分自身でこれ（＝手紙）を受け取って見たところ、歌が一首（書いて）ある。

　　　（あなたが、参詣に来るのを）期待させながら、（参詣に）来ない年月を

　　重ねるので、（あなたと交わした）朽ちることのない約束をどのようにして

　　守ることができるだろうか、いや守ることはできない。

と（書いて）あったので、お返事には、　  
　　　心をかけて（あなた様を）頼みにしています。日吉山王神の社の神聖な

　　垣に木綿で作ったたすきをかけるように。

と書いて差し上げたのだ。これは山王（の神）からのお歌をいただいたのです」と語りなさったので、前にいる人は、あっけにとられ不思議に思われて、「これは、たった今、現実にございました事です。これが（山王の）お手紙よ。また、（これがあなたが）お書きになったお返事よ」と言ったので、雑念をはらって一心に神仏を念じて、前にある二通の手紙を広げて見たところ、少しも（夢と）違うことはない。

　その後、（僧都の）病気は治ってしまった。とても不思議（なこと）である。